

日本鉄鋼協会記事

研究委員会

第5回委員会 開催日：9月16日．出席者：中川委員長，ほか14名．

1. 昭和55年度石原，浅田研究助成金交付者の審査の件

昭和55年度石原，浅田研究助成金交付者5名を下記のように決定した．

(1) 製錬関係(3名)

・左京良雄(東工大) ・桑原 守(名大)
・月橋文孝(東大)

(2) 材料・加工関係(2名)

・鈴木竹四(東大) ・近藤義宏(東工大)

2. 次回講演者について

11月19日に開催する研究委員会では，電源開発(株)の余田様に「石炭の液化，ガス化に関連する材料問題について」の御講演をしていただくことにした．

編集委員会

第8回和文会誌分科会 開催日：10月6日．出席者：田中主査，ほか23名．

1. 20件の論文審査報告がなされ，掲載決定16件，照会后掲載可2件，その他2件であった．

2. 「鉄と鋼」第67年第2号(2月号)に論文10件，技術資料2件，解説4件，委員会報告1件，技術トピックス1件掲載決定した．

第8回欧文会誌分科会 開催日：10月9日．出席者：中村主査，ほか9名．

1. 11件の論文につき，審査報告がなされ，掲載可1件，照会后掲載可2件，修正依頼7件，返却1件であった．

2. 「鉄と鋼」以外の国内雑誌より，1件の研究論文と1件の Technical Feature を勧誘することとなった．

共同研究会

条鋼部会

第50回線材分科会 開催日：10月8日～9日．出席者：西崎主査，ほか90名．

開催地：新日鉄・室蘭

1. テーマ研究

(1) 歩留りの現状と向上対策

(2) 捲取機の現状と向上対策

2. 工場操業状況

3. 工場見学

新日鉄・室蘭，線材・棒鋼工場

標準化委員会

整合性調査特別委員会

第1回厚板調査分科会 開催日：9月19日．出席者：

協本主査，ほか7名．

1. 整合性調査受託までの経過が主査から説明された．

2. ISO と JIS との対比表(C表)作成要領についての検討．

3. 調査結果(B表)について討議し，モデルを作成した．

第1回鋼管調査分科会 開催日：9月25日．出席者：丸岡主査，ほか11名．

1. ISO 整合性調査委託について

(1) 整合性調査マニュアルの説明

(2) 対比表の作り方

(3) 各社の分担決定

第1回鋼質試験調査分科会 開催日：9月17日．出席者：石川主査，ほか13名．

1. ISO と JIS との対比表の検討

a. ISO 4968 (サルファプリント)

b. DIS 4969 (マクロ)

c. ISO 4970 (薄硬化層)

d. DR 2639 (浸炭硬化層)

e. ISO 3754 (炎焼入れ，高周波焼入れ硬化層)

f. ISO 3763 (マクロ介在物)

g. ISO 3887 (脱炭層)

第1回ステンレス鋼調査分科会 開催日：9月24日．出席者：吉武主査，ほか18名．

1. ISO 整合性調査委託について

2. ISO ステンレス鋼の規格について

3. 整合性作業の進め方

4. その他

第1回特殊鋼調査分科会 開催日：9月18日．出席者：光島主査，ほか13名．

1. JIS と ISO との整合性検討．

(1) 主旨ならびに経過説明．

(2) 調査要領の説明と検討．

第2回総括調査分科会 開催日：9月4日．出席者：小倉主査，ほか11名．

1. 整合性評価基準作成

2. その他

第3回総括調査分科会 開催日：10月6日．出席者：小倉主査，ほか14名．

1. 整合性総合評価について

整合性調査特別委員会の各分科会が，C表およびB表のモデルを提出し，各分科会での問題点を発表した．

ISO 鉄鋼部会

第42回SCI分科会 開催日：8月21日～22日．出席者：川村主査，ほか8名．

1. 前回議事録の確認．

2. ISO/TC17/SC1 Sec. の業務について．

3. ISO/TC17/SC1 の運営規則審議．

4. SC1 Sec. の業務を整理し，スケジュール表を作

成して次回会議に提出することになった。

第 11 回 SC2 分科会 開催日: 10月13日. 出席者: 水野主査, ほか 8 名.

1. 高強度鋼の定義について討論を行った.
 - (1) 全般について.
 - (2) アメリカ提案の High Strength Steel について.

2. ステンレス鋼・耐熱鋼について
3. 特定鋼種の分類定義について.
4. その他 合金鋼の成分規定.
5. CCCN 第 23 回統一システム委員会に出席する委員の選出.

第 48 回 SC4 分科会 開催日: 9月18日. 出席者: 光島主査, ほか 14 名.

1. ISO 4 規格について, 5 年ごとの定期見直し回答を作成するための検討.

- (1) ISO-683/Part 15
- (2) ISO-683/Part 16
- (3) ISO-683/Part 17
- (4) ISO-683/Part 18

以上, 4 規格について見直し要否回答をそれぞれの担当会社でまとめ, 11月18日に確認の上, 提出することとした.

2. 快削鋼の生産実験について.

第 16 回 SC7 分科会 開催日: 9月17日. 出席者: 石川主査, ほか 15 名.

1. ISO と JIS との対比表の検討.
2. ISO 1901 に対する回答案の作成.
3. その他

第 47 回 SC12 分科会 開催日: 8月19日. 出席者: 三佐尾主査, ほか 11 名.

1. 前回議事録承認.
2. 第 13 回 TC17/SC12 国際会議出席報告.
3. ガスボトルの日本コメント案説明.
4. INSM の構成, 使用目的についての説明.
5. letter Symbol についての検討

第 48 回 SC12 分科会 開催日: 9月10日. 出席者: 三佐尾主査, ほか 7 名.

1. 前回議事録承認.
2. レターシンボル案の検討.

第 18 回 SC15 分科会 開催日 8月 28 日. 出席者: 山南主査, ほか 11 名.

1. 国際会議出席者を出す件で検討したが, 各社とも都合がつかず, 欠席することになった.

2. 126 の日本コメントについて幹事より説明があり承認された.

3. 134 (フランス国鉄の意見) の内容について幹事から説明があつた. この文書は ISO のルール上正しいものかどうか TC17 事務局に問い合わせることにした.

第 5 回 SC17 分科会 開催日: 8月22日. 出席者: 光島主査, ほか 11 名.

1. 次回国際会議に関する検討. 前回までの基本的な検討結果に基づき, 各担当で用意された日本コメント(案)について検討, 確認を行った.

- (1) WG1N2 に対する日本提案

- (2) WG1N3 に対する日本提案
- (3) WG2N2 に対する日本提案
- (4) WG2N3 に対する日本提案
- (5) SC17N31 に対する日本提案
- (6) SC17N30 について

2. 国際会議は, 鈴木金属・住金・神鋼からそれぞれ出席することが内定した.

第 26 回 TC5 分科会 開催日: 9月 8 日. 出席者: 日下部主査, ほか 8 名.

1. 第 4 回 TC5 及び第 21 回 TC5/SC1 国際会議出席報告

2. WG14 (パイプサポート) メンバー登録の件
3. DIS 3545 (Symbol) の投票報告
4. ISO 2853 (食品用ステンレス鋼管) および ISO 3305 (溶接精密鋼管) の改訂に関する意見提出 (期限 1980 年末)
5. DIS 5251 (ステンレス溶接継手) および DIS 3419 (非合金・合金の溶接継手) についての鉄管継手協会よりの回答結果

データシート部会

第 10 回破壊靱性データシート分科会 開催日: 9月 9 日. 出席者: 金沢主査, ほか 11 名.

1. データの解析方法について検討した.

第 63 回普通鋼分科会 開催日: 9月 3 日. 出席者: 小倉主査, ほか 9 名.

1. SPV, SLA の板厚拡大
2. 80キロハイテンの JIS 化
3. 審査事項 (表示の件)

第 64 回普通鋼分科会 開催日: 10月 8 日. 出席者: 小倉主査, ほか 9 名.

1. SPV, SLA 改正案の検討
2. 80キロハイテンについて
3. その他

第 78 回鋼管分科会 開催日: 8月25日. 出席者: 丸岡主査, ほか 16 名.

1. 指定商品の表示に関する告示案の検討
2. STKM 改正案の検討
 - (1) シリンダー用鋼管について
 - (2) 自動車用鋼管について
 - (3) その他 STKM について

第 79 回鋼管分科会 開催日: 9月25日. 出席者: 丸岡主査, ほか 13 名.

1. 鋼管の表示について
2. 鋼管審査事項について

第 34 回鋼質判定試験方法分科会 開催日: 9月17日. 出席者: 石川主査, ほか 14 名.

1. 非金属介在物の顕微鏡試験方法(案)の検討
2. 結晶粒度試験方法(案)の検討
3. その他

第2回 JIS 鋼矢板原案作成分科会 開催日: 8月26日

日・出席者: 福岡主査, ほか 20 名.

1. 熱間圧延鋼矢板および鋼管矢板の原案作成審議

第3回 JIS 鋼矢板原案作成分科会 開催日: 9月10日

日・出席者: 福岡主査, ほか 18 名.

1. 鋼管矢板の審議
2. 熱間圧延鋼矢板の審議
3. その他

鉄鋼標準試料委員会**第55/III 回常任委員会** 開催日: 9月16日・出席者:

川村委員長, ほか 11 名.

1. 標準値の決定
工具鋼シリーズ (JSS 603~605) およびステンレス鋼シリーズ (JSS 653~655)
2. 委員会規定説明会打ち合わせ
3. 委員会行事予定の推進案
 - (1) 機器分析用標準試料に関する懇談会
 - (2) 日本鉄鋼標準試料説明会
4. その他

鉄鋼基礎共同研究会**第16回高温変形部会** 開催日: 8月26日・出席者:

田村部会長, ほか 27 名.

1. 講演

- (1) 加工硬化の減少に及ぼす温度および第2相粒子径の影響
- (2) Pb-Ca-Sn 合金の特性について
- (3) 焼結鍛造の基礎的試験
- (4) 鉄鋼の高温変形挙動に及ぼす微量元素と合金元素の影響
- (5) An Aspect of Metallurgical Problem on Controlled Rolling Steels in Japan

2. 高温変形シンポジウム

第3回シンポジウムは「高温変形と高温破壊」を主題に, 昭和56年2月17日に開催することを決定した. 講演は①高温変形機構②高温変形抵抗③高温延性と高温破壊をテーマに Keynote Lecture と問題提起より構成する.

National Symposium on Vacuum Technology & Metallurgical Applications

- 1) 期間 1981年1月第2週
- 2) 場所 Hyderabad, India
- 3) 主催 Indian Vacuum Society

標記シンポジウムに関するお問い合わせは直接下記までお願いいたします.

The Convenor, Organizing Committee;
National Symposium on Vacuum Technology & Metallurgical Applications,
Plasma Physics Section, BARC,
Bombay-400085
INDIA

International Symposium on the Role of Interfaces in Metallurgical Reactions

- 1) 期間 1981年8月24~25日
- 2) 場所 Hamilton, Canada

標記シンポジウムに関するお問い合わせは直接下記までお願いいたします.

Dr. J. K. Brimacombe
Stelco Professor of Process Metallurgy
Department of Metallurgical Engineering
University of British Columbia
Vancouver, B. C. V6T1W5
CANADA

正 誤 表

「鉄と鋼」66 (1980) 11, S955

高温鋼板のラミナー冷却—第2報—

大友朗紀, 山口喜弘, 中尾正和, 水田篤男, 大砂 寛, 柚垣英則

ページ	訂正箇所	誤	正
S955	下から2行目	$\{-5.3 \times 10^{-4} \cdot T\}$ に比例する	$\{-5.3 \times 10^{-4} \cdot T\}$ に比例する